生産管理論

菰田 文男

授業概要

本講義では、生産現場で「いかに」生産するかという狭い意味に限定して生産管理の理論と現状を論じるのではなく、経営戦略、研究開発、営業活動まで含めた、広い意味での生産管理の理論と現状について論じる。とりわけその中心を低価格戦略と高付加価値戦略という矛盾する二つの戦略を同時に遂行・達成することが何よりも重要であることの理解に置く。すなわち、今後の日本企業が市場競争力を強化するためには、二つの戦略を同時に達成することが必要であるという立場に立って、その実現のためには人工知能(artificial intelligence)を積極的に導入することが不可欠であることを論じる。そのための具体的な事例として、流通業界における自動レジ、自動車産業における自動運転やシェアリングサービス、電気産業における IOT サービスなどをとりあげる。

授業計画

第 1 回	生産管理論とは
第 2 回	狭い意味の生産管理論と広い意味の生産管理論
第 3 回	低価格戦略とは何か
第 4 回	高付加価値戦略とは
第 5 回	低価格かつ高付加価値の製品の必要性
第 6 回	両戦略を同時に実現するために必要な人工知能
第 7 回	人工知能とは何か
第 8 回	人工知能による低価格と高付加価値化の実現
第 9 回	人工知能により失われる雇用
第10回	人工知能により失われない雇用
第11回	人工知能を利用した流通業界の新しい競争
第12回	人工知能による自動車運転の実現
第13回	人工知能を利用したＩＴ製品・サービス
第14回	人工知能を利用したＩＴ製品・サービス
第15回	むすび
第16回	期末試験

到達目標

日本企業が市場競争力を回復するためには、低価格で高付加価値の財・サービスを開発することが必要であること、低価格化と高品質・高付加価値化とを同時に実現することは容易ではないこと、このことが海外からの低価格戦略による攻勢を受けて、日本企業の業績が低迷していることを理解する。その上で低価格化と高品質・高付加価値化の実現のためには人工知能の利用が不可欠であることを理解し、さらにその具体的な事例を知ることを到達目標とする。

履修上の注意

今日、日本企業が低価格を武器とする東アジア、東南アジアの企業に対して競争力を失い、長く業績が低迷しているという現実を、予めさまざまな記事等を利用して理解しておくことが望ましい。

予習・復習

講義と関連する、日々の新聞記事・雑誌記事などを自主的に読み、講義の内容の理解を深めることを期待する。

評価方法

出席状況（３０％）と学期末テスト（７０％）により評価する。

テキスト

毎回配布するプリントを利用する。